

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:20-21.

他施設を対象とした新人看護職員研修の成果

菊地 美登里

## 「他施設を対象とした新人看護職員研修の成果」

旭川医科大学病院 看護職キャリア支援職場適応支援担当

○菊地美登里

＜はじめに＞

2010年4月から新人看護職員の臨床研修が努力義務となった。A病院では、2010年から地域貢献の一環として、他施設の新人看護師を対象とした研修（以下、他施設新人看護職員研修）を実施してきた。研修の実践が研修目標①根拠に基づいた看護技術の習得②アセスメントの重要性の理解に到達できたかについて、2014年度の実践を分析し報告する。

＜方法＞

本研修プログラムの特徴：①他施設の新人看護師のみを対象にしている②各施設の先輩看護師に同伴してもらい、職場との乖離が生じないように配慮している③認定看護師等の専門的で最新の内容を講義・演習に取り入れていることである。

研修方法：4月～9月の期間で1日6時間4回の日程で行った。1回目2回目はA病院の看護師が指導を担当し、基本的な看護技術を3～4名のグループで1日4項目実施した。3回目4回目は、救命救急の実際や褥瘡の予防、摂食嚥下障害看護など、各専門分野の看護師が講師を担当し講義・演習を行った。

評価方法：2014年度の研修に参加した4施設の受講者31名のうち、同意を得られた研修者16名および同伴した先輩看護師5名について、研修後のアンケートを単純集計した。自由記載

欄は、内容の類似性に基づき集計した。倫理的配慮として研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得た。

＜結果と考察＞

研修者のアンケート結果では、研修内容と指導者の説明の理解について、全員が「できた」「ある程度できた」と回答し、その理由は「指導が丁寧で疑問が解決した」「あいまいな知識技術の再確認ができた」であった。

研修目標達成についての自己評価は、目標①②ともに「できた」「ある程度できた」が87%～100%であり、研修での学びの自由記載では、「看護の基本・根拠の大切さ」「患者の安全・安楽な援助」「アセスメントに基づく援助」の重要性が学べたと述べていた。以上のことから研修目標は達成した。

また、先輩看護師のアンケート結果では、研修の進め方や指導者の指導の仕方について、「参考にしたい」「学びになった」と意見を述べていた。

研修では演習項目は限られるが、研修者は根拠やアセスメントの重要性に気づいていた。

このことは、自施設での根拠に基づいた個別性のある看護実践につながると考える。本研修では、根拠とアセスメントの重要性の理解に目標をおくことが妥当であると考えられる。

# 「他施設を対象とした新人看護職員研修の成果」

旭川医科大学病院

○菊地美登里 三浦美佳 三島玲子 平塚志保 黒崎明子 上田順子

## I. はじめに

2010年4月から新人看護職員の臨床研修が努力義務化となった。A病院では、同年から地域貢献の一環として、他施設の新人看護師を対象とした研修(以下、他施設新人看護職員研修)を実施してきた。

本研修プログラムの特徴は、

1. 他施設の新人看護師のみを対象にしている
2. 各施設の先輩看護師に同伴してもらい、職場との乖離が生じないように配慮している
3. 認定看護師等による専門的で最新の内容を、講義・演習に取り入れていることである。

研修目標は、

- 1) 根拠に基づき安全・安楽を考えた看護技術を習得する
- 2) 患者の特性やニーズに応じたアセスメントの重要性がわかること。今回、2014年度の実践を分析し、研修目標に到達できたか、目標設定が妥当であったかを検討したので報告する。

## II. 研修の概要

1. 研修者：新人看護師 延べ23人
2. 期間・時間：4月～9月 4回 1日6時間
3. 研修方法
  - 1) 研修指導は、主に看護職キャリア支援が担当し、その他病棟スタッフや認定看護師等の協力を得た
  - 2) 技術演習は、1グループ3～4人の少人数とし、1名の指導者が担当した
  - 3) 他施設の実施方法を、研修者や先輩看護師に確認し実施した
  - 4) A病院の看護職キャリア支援教育担当が作成した「看護技術マニュアル」[DVD]をもとに、基本や根拠を説明し疑問に答えた
4. 内容

日 程	研 修 内 容	研修者	指導者
4月25日(金)	◆静脈注射Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◆末梢点滴静脈内注射 ◆酸素吸入療法	22名	7名
5月9日(金)	◆吸引(口腔内、鼻腔内) ◆筋内注射 ◆経管栄養法 ◆輸液ポンプの準備と管理 ◆膀胱内置置カテーテルの挿入と管理	22名	6名
5月23日(金)	◆中心静脈注射 ◆救命救急の実践：救急看護認定看護師 ◆輸血製剤の取扱い：臨床輸血看護師	20名	8名
9月5日(金)	◆褥瘡の予防：皮膚・排泄ケア認定看護師 ◆採食・嚥下障害患者の管理：採食・嚥下障害看護認定看護師 ◆心電図モニター・12誘導心電図の後管理：集中ケア認定看護師	21名	7名

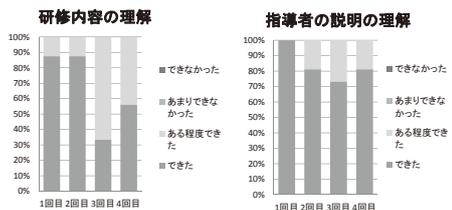
## III. 研究方法

2014年度の研修参加者31名(新人看護師23名、先輩看護師8名)のうち、同意を得られた研修者16名、同伴の先輩看護師5名について研修後のアンケートを単純集計した。自由記載欄は、内容の類似性に基づき集計した。

倫理的配慮は、研修者全員に対し、既に記載済みの研修後のアンケートについて、研究に用いること、個人名や施設名が特定されないことを文書で説明し同意を得た。研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得た。

## IV. 結果

### <アンケート結果1>

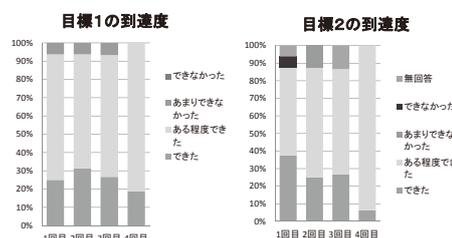


主な理由	主な理由
・わかりやすい指導で理解できた	・丁寧な指導でわかりやすかった
・DVD,資料の活用でわかりやすかった	・適切なアドバイスと指導だった
・基本を学べた	・根拠を教えてもらった

### <アンケート結果2>

#### 研修目標の達成度

- 目標1 根拠に基づき安全・安楽を考えた看護技術を習得する  
目標2 患者の特性やニーズに応じたアセスメントの重要性がわかる



### <アンケート結果3>

研修者の学び・感想 (自由記載)		コード数	
1回目 4月25日	2回目 5月9日	コード数	
安全・安楽な援助の大切さ	8	基本・根拠の理解の大切さ	6
基本・根拠の理解の大切さ	4	患者への説明と配慮の必要性	4
アセスメントの重要性	4	疑問が解決した	2
疑問が解決し知識の確認ができた	4	苦痛最小限の援助の必要性	2
患者への説明と配慮の必要性	2	わかりやすい指導	2
丁寧でわかりやすい指導	2	実践に生かせる	2
その他	2	その他	3
3回目 5月23日	4回目 9月5日	コード数	
BLSなどの手技を実践に生かした	7	実践を振り返り、アセスメントの重要性がわかった	6
根拠に基づき正しい知識技術の習得	3	看護実践に生かしたい	4
その他	5	知識・理解が深まった	3
		基本の大切さ	2
		認定看護師の貴重な講義が聴けた	2
		その他	3

### <アンケート結果4>

先輩看護師の学び・感想 (自由記載)		コード数
1回目 4月25日	2回目 5月9日	コード数
当院の技術指導に役立つ	過去に受講した際の資料は今でも参考にしている	
理解度に沿った指導方法を参考にしたい	研修者に感想を聞き共感していたのが印象的	
基本から確認することができた	モデルを使用しイメージしやすかった	
他施設と共に学び刺激になった		
3回目 5月23日	4回目 9月5日	コード数
BLSは実践的な研修だったが、緊張感を持って実施して教しかった	研修で得た知識を生かし、より良い看護を提供してほしい	
充実した研修だった	新しい知識を広め病棟の活性化につなげたい	
指導者が丁寧でわかりやすかった	DVD,モデルを活用しイメージしやすかった	
研修で学んだ事を実践で生かしたい	すぐ実践できる内容であった	
	基本から実践までわかりやすい説明だった	

## 結果のまとめ

1. 研修者のアンケート結果では、【研修内容の理解】について、全員が「できた」「ある程度できた」と回答した。主な理由は、「わかりやすい指導」「DVD,資料の活用」「基本がわかった」であった。
2. 【指導者の説明の理解】について、全員が「できた」「ある程度できた」と回答した。主な理由は「丁寧な指導」「適切なアドバイスと指導」「根拠の説明」であった。
3. 【目標達成】については、目標1では94%～100%の人が、目標2では87%～100%の人が「達成できた」「ある程度達成できた」と回答した。
4. 【研修者の学びと感想】では、「安全・安楽な援助の大切さ」「アセスメントの重要性」「基本・根拠を理解することの大切さ」について述べていた。
5. 【先輩看護師の学びと感想】では、「研修者の理解度に沿った研修の進め方が参考になった」「自施設の新人教育、看護実践に生かしたい」「他施設と共に学び刺激になった」と述べていた。

## V. 考察

アンケート結果の【目標達成度】【学び・感想】から、研修目標は達成できたと考える。要因としては、次のことがあげられる。

1. 他施設の新人看護師のみを対象とし、少人数での演習としたことで、個々のペースに合わせた指導ができた
2. 自施設に戻った際に混乱しないように、それぞれの施設での実施方法を聞き、疑問に答えながら実施した
3. DVDなどを活用し、基本・根拠を強調し伝えた

本研修の最終目的は、研修者がそれぞれの施設に戻り、看護実践に役立つことである。

研修での演習項目は限られるが、研修者は看護を実践する上での根拠やアセスメントの重要性に気づいていた。このことは、自施設での個別性のある根拠に基づいた看護実践につながると考える。

新人看護職員研修ガイドラインの研修理念に、「新人看護職員研修は看護実践の基礎を形成するものとして重要な意義を有する」と述べている。このことから、本研修では、根拠とアセスメントの理解に目標をおくことは妥当であったと考える。

さらに、ガイドラインでは、「皆で育てるという組織文化の醸成が重要である」としている。本研修は、他施設の新人看護師のための研修であると同時に、A病院にとっても、他施設の看護実践を知り学ぶ良い機会になっている。A病院は、「地域医療に寄与する」ことを理念に掲げており、他施設と共に学び、地域全体の看護の質向上を目指すために、有意義な研修と考えている。

## VI. 結論

1. 本研修は、研修目標に到達し、目標設定は妥当であった。
2. 他施設の新人のみを対象とした研修は、研修者個々の理解に沿って実施でき効果的だった。
3. 研修を企画・実施する側にとっても、共に学ぶ機会になり、地域全体の看護の質向上のために有意義な研修と考える。